

阿武町地域公共交通計画

～暮らしを支え、地域に根ざした公共交通～



令和6年3月

阿武町

ごあいさつ

町民の皆さまには、日頃から町政全般にわたり、温かいご支援とご理解を賜り、厚くお礼申し上げます。

近年、少子高齢化の進展による公共交通の利用者減少や「新しい生活様式」の定着など、本町の公共交通を取り巻く環境は大きな変革期を迎えています。

こうしたなか、阿武町では「第7次阿武町総合計画」に基づき、「夢と笑顔あふれる『豊かで住みよい文化の町』」の実現に向け、様々な事業を総合的に推進して参りました。

今回、阿武町内の総合的な公共交通体系の構築を実現していくための計画として、新たに「阿武町地域公共交通計画」を策定しました。

公共交通は、運転免許を持たない人や運転が困難な人でも安全・安心に移動でき、快適に生活していくための重要な交通インフラです。

持続可能な公共交通体系の構築により、過度に自家用車に頼ることなく、誰もが自由に外出することができる環境づくりに向け、効果的な事業に取り組んで参る所存です。

結びに、本計画の策定にあたり、活発な意見交換を行っていただいた「阿武町地域公共交通会議」の委員の皆さま、並びに、貴重なご意見をいただきました町民の皆さま、関係機関の方々に心より感謝申し上げます。



令和6年3月

阿武町長 花田 憲彦

目次

1	はじめに.....	1
1-1.	計画策定の目的.....	1
1-2.	計画の区域.....	1
1-3.	計画の期間.....	1
1-4.	計画の位置づけ.....	1
1-5.	計画における「公共交通」.....	1
2	地域と公共交通の現状.....	2
2-1.	位置・地勢.....	2
2-2.	人口と高齢化の状況.....	3
2-3.	目的地となる施設の立地状況.....	4
2-4.	公共交通の現状.....	5
2-5.	公共交通機関の整備状況.....	16
2-6.	公共交通に関する町の財政負担.....	17
2-7.	日常生活における移動の実態とニーズ.....	18
3	取り組むべき課題と対応方針.....	19
4	阿武町のまちづくりの方向性.....	20
4-1.	上位計画.....	20
5	阿武町における公共交通のめざす姿.....	21
5-1.	基本理念.....	21
5-2.	基本方針（基本目標）.....	21
5-3.	阿武町における公共交通の将来像.....	22
6	基本方針を実現するための取組.....	23
6-1.	取組一覧.....	23
6-2.	各取組の内容.....	24
7	計画の管理.....	27
7-1.	評価指標.....	27
7-2.	計画の推進とモニタリング.....	29
7-3.	スケジュール.....	30

1 はじめに

1-1. 計画策定の目的

阿武町は、山口県の北部に位置して日本海に面し、周囲は萩市に接しています。面積115.95km²のうち、84%が山林で、人口約3千人、高齢化率が50%を超える、過疎・高齢化の町です。

昭和30年1月に旧・奈古町、福賀村、宇田郷村が合併して誕生。役場本庁のある奈古地区と、福賀地区、宇田郷地区の3地区で構成され、海岸部の奈古地区を中心に、海岸部の宇田郷地区との間をJR山陰本線と国道191号線が併走し、山間部の福賀地区とは県道益田阿武線で繋がっています。

公共交通は、鉄道と、奈古駅及び道の駅阿武町を交通の拠点として、萩方面には路線バス、福賀地区と宇田郷地区の間は町営バスが運行し、全地区でドアツードアのデマンド型交通が運行しています。

人口減少、とりわけ高校生や高齢者の減少に伴い、公共交通を利用する人は減っていますが、地域に最適な交通手段の維持や交通弱者が外出しやすい交通体系の構築等が課題となっています。

こうしたことを踏まえ、各関係主体の連携のもと、将来にわたって持続可能な公共交通体系の再構築に向け、「阿武町地域公共交通計画」を策定します。

1-2. 計画の区域

本計画の区域は、阿武町の全区域とします。

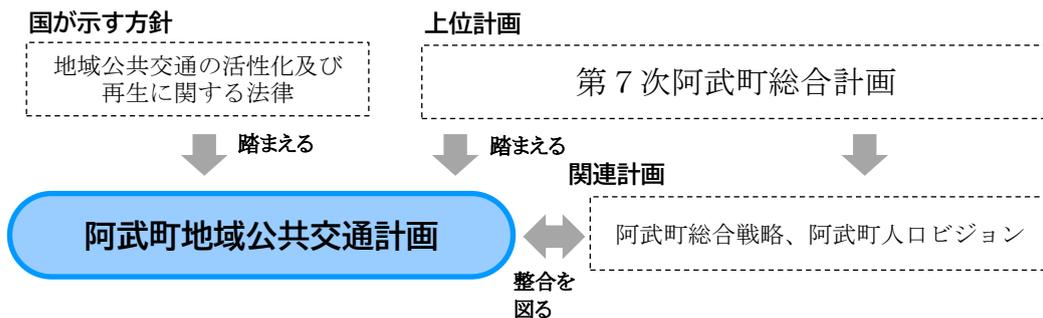
1-3. 計画の期間

本計画の期間は、令和6年度～令和10年度の5年間とします。

1-4. 計画の位置づけ

本計画は、「地域公共交通の活性化及び再生に関する法律」を踏まえて、阿武町における望ましい公共交通のあり方を明らかにする「マスタープラン」としての役割を果たすものです。

策定においては、「第7次阿武町総合計画」を上位計画に位置づけ、関連計画である「阿武町総合戦略」、「阿武町人口ビジョン」と整合を図ることとします。



1-5. 計画における「公共交通」

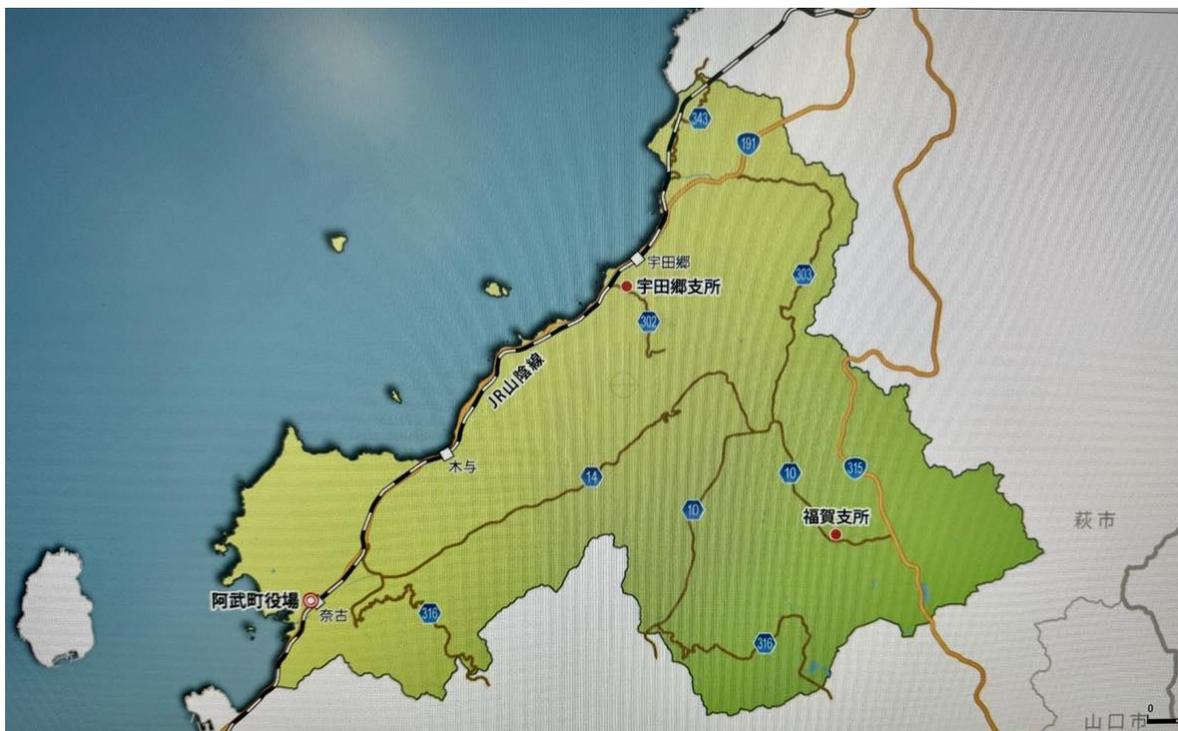
本計画では、以下の移動手段を「公共交通」に位置づけます。

- 鉄道「JR山陰本線」
- 路線バス「萩商工高校前～奈古駅前線」
- 町営バス「道の駅～福賀小前・宇生賀線」、「道の駅～惣郷線」
- デマンド型交通「なごやか便」、「福賀コミュニティ交通ふくすけ便」、「宇田ふれあい便」
- スクールバス（福賀地区・宇田郷地区）

2 地域と公共交通の現状

2-1. 位置・地勢

- 阿武町は山口県の北部に位置し、三方が萩市に隣接しています。圏域の中心都市は萩市です。
- 役場本庁のある奈古地区及び宇田郷地区は日本海に面して比較的温暖ですが、内陸部の福賀地区は標高380mを超える冬期積雪のある準高冷地です。

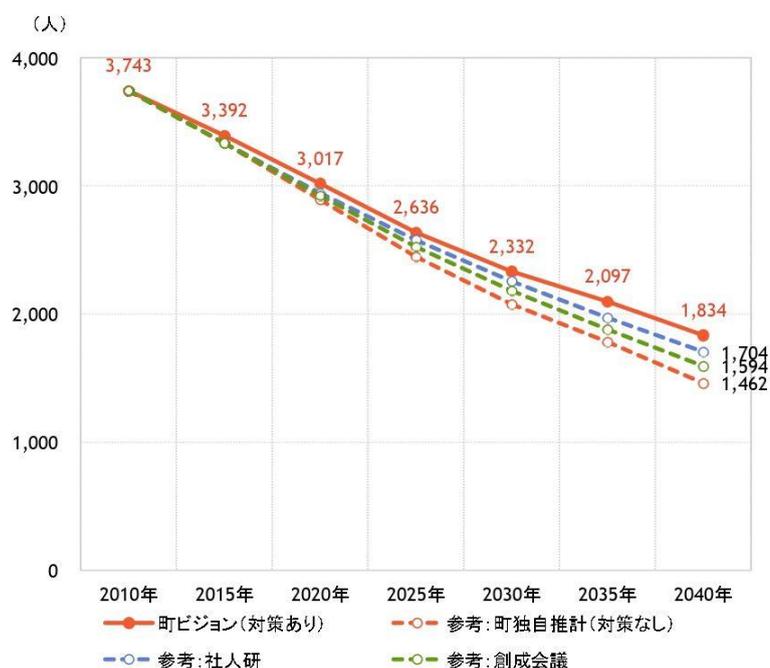


2-2. 人口と高齢化の状況

- 令和2年の国調人口は3,055人で、昭和30年の合併時の10,789人をピークに減少が続いています。近年は定住対策の効果で、若干の社会増となっています。
- 人口の約2/3が奈古地区に集中しており、JR奈古駅の周辺や国道191号線周辺に分布しています。
- 町内にはDID（人口集中地区）はありませんが、奈古地区や宇田郷地区の民家の密集する漁村集落のほか、JR奈古駅南側には町営住宅、分譲宅地があり、福賀地区の農村集落は住居が点在しています。
- 平成27年に策定した阿武町人口ビジョンでは2040年の人口目標値を1,834人としています。
- 令和5年3月の高齢化率は阿武町全体で51.41%、奈古地区で47.50%、福賀地区が59.88%、宇田郷地区が59.88%となっており、高齢化が進行しています。



【国勢調査】



【H27阿武町人口ビジョン】

2-3. 目的地となる施設の立地状況

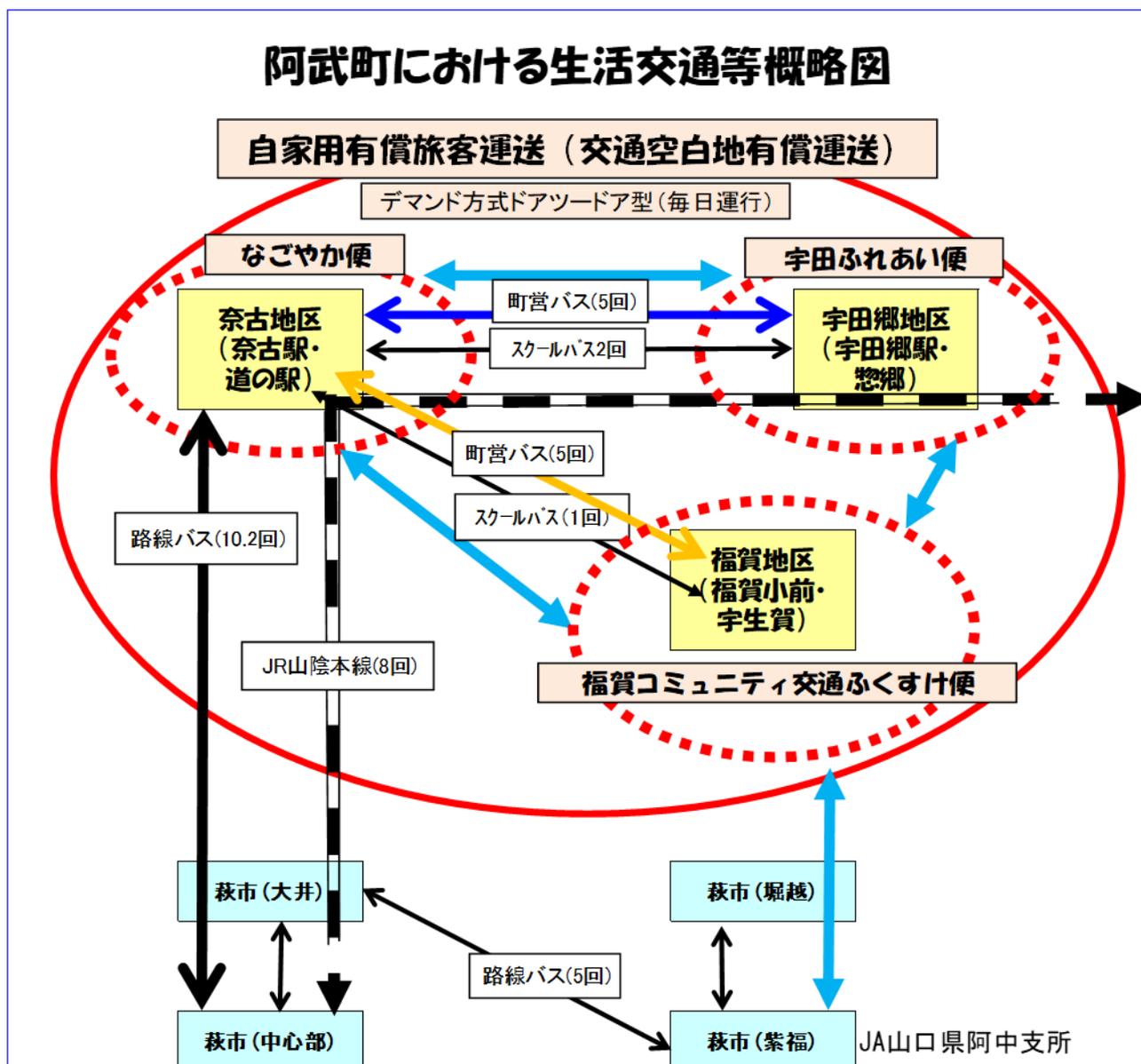
- 公共施設や医療・福祉施設、商業施設、金融機関などといった日常生活における移動の目的地となる施設は、役場本庁のある奈古地区の中心部に集中しています。このほか各地区の役場支所周辺に立地しています。

区分	奈古地区	福賀地区	宇田郷地区
公共施設	役場本庁 町民センター 阿武小学校 阿武中学校 みどり保育園 グリーンパークあぶ 萩高校奈古分校	役場福賀支所 のうそんセンター 福賀小学校	役場宇田郷支所 ふれあいセンター
医療・福祉施設	齋藤医院 和田歯科 久保田薬局 清ヶ浜清光苑 グループホームであい 恵寿苑 社会福祉協議会	福賀診療所 いらお苑	ひだまりの郷
商業施設	サンマート奈古店 ウォンツ阿武店 道の駅阿武町 ABUキャンプフィールド	福の里直売所	うおなの郷(R6.3閉店)
その他	奈古郵便局 山口銀行阿武支店 萩山口信用金庫奈古支店 JA奈古大井支所 JF奈古支店 JR奈古駅・木与駅	福賀郵便局 JA福賀ふれあい店	宇田郵便局 JR宇田郷駅

2-4. 公共交通の現状

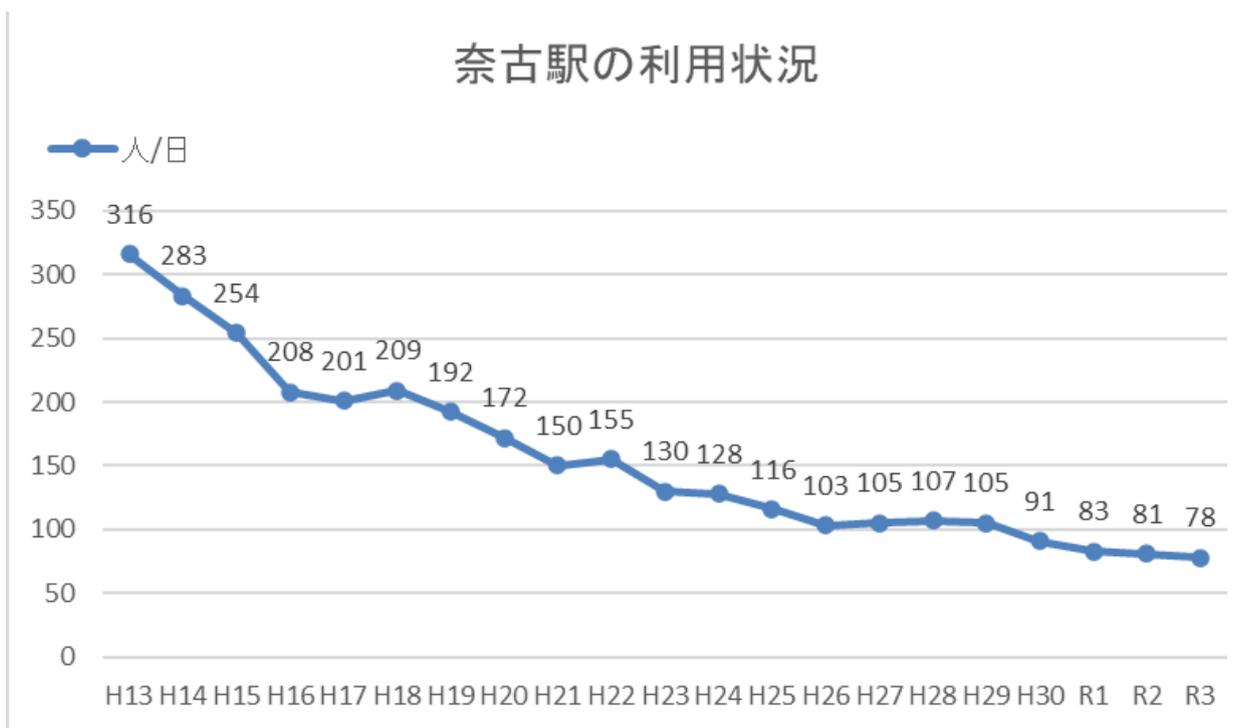
① 鉄道・路線バス等の運行状況

- JR山陰本線が町域の海岸部を走っており、JR奈古駅、木与駅、宇田郷駅が立地しています。
- 町内を運行する路線バスは、圏域の中心都市である萩市との間を「萩商工高校前～奈古駅前線」、交通の拠点である奈古駅や道の駅のある奈古地区と福賀地区、及び奈古地区と宇田郷地区の間を町営バスが運行しています。
- 令和3年10月から福賀地区でドアツードアのデマンド型交通が運行を開始、令和5年4月から奈古地区と宇田郷地区でもデマンド型交通が運行を開始し、町内全域をカバーしています。
- 福賀地区と奈古地区、宇田郷地区と奈古地区の間をスクールバスが運行しています。



② 鉄道の利用状況

- JR奈古駅の令和3年度の一日あたり平均乗車人員は78人で、ほとんどが高校生です。
- 萩市内の高校に通う福賀地区や宇田郷地区の高校生は奈古駅で町営バスから鉄道に乗り換えています。
- 一日あたり平均乗車人員は、平成29年度までは100人を超えていましたが、生徒数の減少等により平成28年度に県立奈古高校が萩高校の分校となり、萩へ通学する高校生も大きく減少しています。



【JR調べ】



③ 路線バスの利用状況

- 圏域の中心都市萩市との間を（株）防長交通の路線バス「萩商工高校前～奈古駅前線」が1日10.5回（日曜と祝日は9.5回）運行しており、起終点である奈古駅前で町営バスやデマンド型交通と連絡し、公共交通ネットワークを形成する上で特に重要な役割を担っています。一方、利用者数は年々減少しており、令和4年度は平成30年度の65%の水準まで減少しています。自治体・事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要があります。

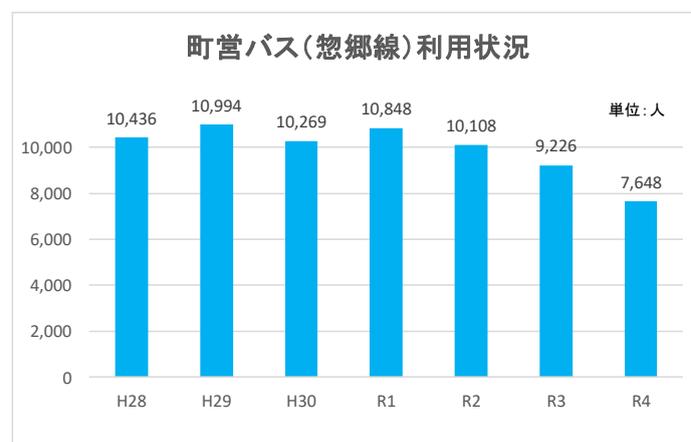
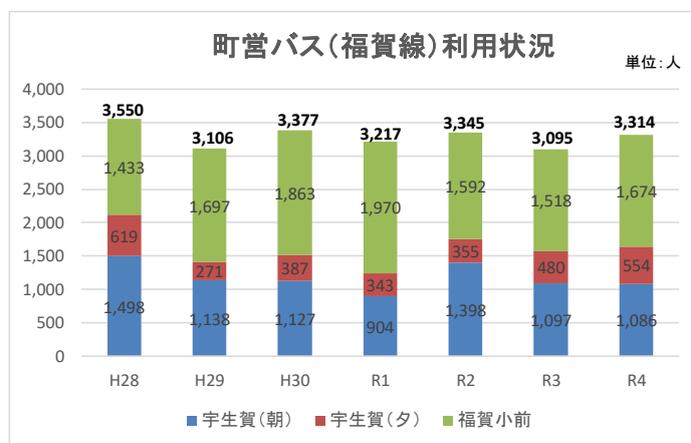


【防長交通調べ】



④ 町営バスの利用状況

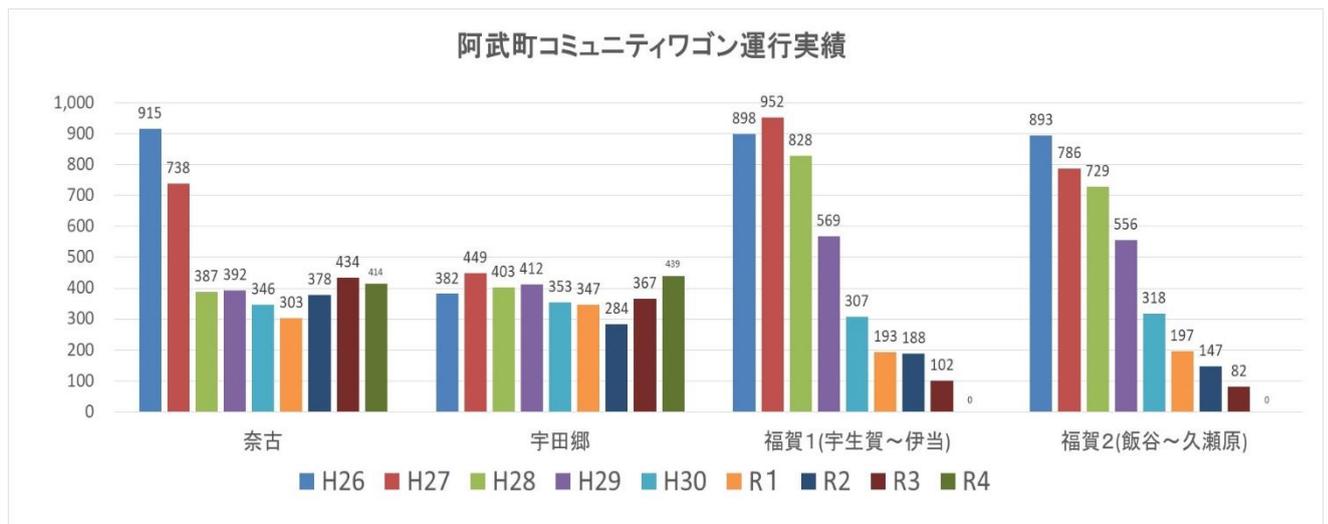
- 町内には、町営バスが2路線あり、(株)防長交通に運行委託しています。
- 圏域の中心都市萩市への結節点である奈古駅や道の駅を起点に、内陸部の福賀地区を結ぶ「道の駅～福賀小前・宇生賀線」、海岸部の宇田郷地区を結ぶ「道の駅～惣郷線」があります。幹線交通である鉄道及び路線バスと奈古駅で接続することにより、広域への移動を可能とするなど、幹線交通を補完する欠かせない路線です。一方で、自治体や事業者の運営努力だけでは路線の維持が難しく、地域公共交通確保維持改善事業により運行を確保・維持する必要があります。
- 平成13年10月の宇田診療所廃止を契機に、路線バス「萩バスセンター惣郷線」1日2回運行を廃止し、「道の駅～惣郷線」を1日5回運行で開始、運賃は一律200円(同一地区内は100円)です。
- 平成28年4月の福賀中学校の阿武中学校への統合を契機に、路線バス「萩バスセンター(大井経由)福賀小前・宇生賀線」1日5回運行を廃止し、「道の駅～福賀小前・宇生賀線」を1日5回運行で開始し、運賃は一律300円(同一地区内は100円)です。なお、両路線とも小学生以下及び障がい者手帳所持者はこの半額、乳幼児は無料です。
- 「道の駅～惣郷線」は沿線住民が多く、奈古地区や萩市への通院や買い物等で利用が多いものの、「道の駅～福賀小前・宇生賀線」は朝夕の高校生の通学が主で、日中の利用は少ない状況です。
- 平成29年7月から福賀地区及び宇田郷地区の高校生の保護者の経済的負担の格差緩和のため、両地区の高校生の通学、学校行事に限り、町営バスの乗車賃を無料にしています。
- 「道の駅～福賀小前・宇生賀線」の最終便で萩から帰宅の高校生がJRから乗り継いで利用していましたが令和5年3月のJRのダイヤ改正で乗り継ぎができなくなり、福賀コミュニティ交通ふくすけ便を無料措置で利用しています。



【防長交通調べ】

⑤ デマンド型交通の利用状況

- 平成24年5月から町内3地区で各地区の周辺部と拠点をつなぐ目的で、定時定路線の路線バス方式で週2日、奈古・宇田郷地区は1日3回、福賀地区は1日4回、1回100円で運行していた阿武町コミュニティワゴンは、高齢者人口の減少、最寄りのバス停まで行くことが困難などの理由で利用者が減少、特に福賀地区は激減しました。
- ドアツードアのニーズが高まり、福賀地区の有志が検討を重ね、市町村運営有償運送（交通空白輸送）のデマンド方式で、事前予約により毎日朝6時から午後8時まで地区内300円、地区外500円で運行するしくみを構築、令和3年10月から「福賀コミュニティ交通ふくすけ便」が運行開始しました。
- コミュニティワゴンの1乗車100円に対し、料金は高めの設定ですが、福祉バス券助成事業（※⑦）の活用等により高齢者等の負担軽減を行っています。
- ドアツードアで、目的地まで乗り換えなく誰でも何の目的でも利用でき、大変好評です。
- 奈古地区及び宇田郷地区でも「福賀コミュニティ交通ふくすけ便」に倣い、また奈古地区では令和4年度末で近鉄タクシー奈古待機所が撤退することから、関係者で協議を重ね、令和5年4月から「なごやか便」及び「宇田ふれあい便」を運行開始しました。

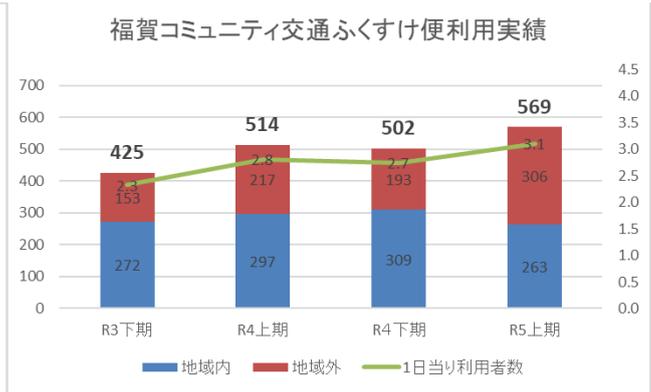
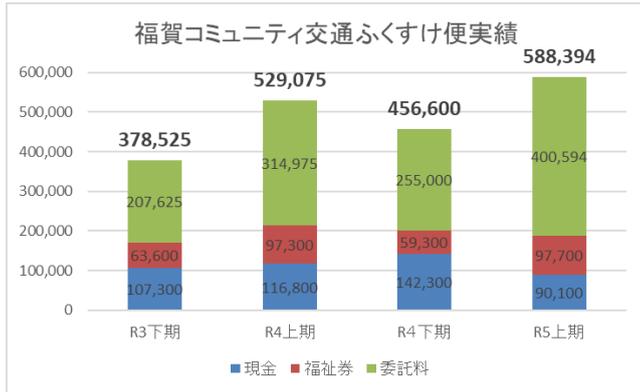


【まちづくり推進課調べ】

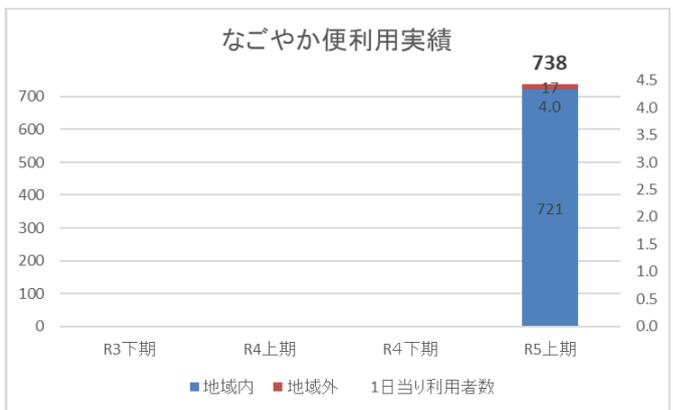
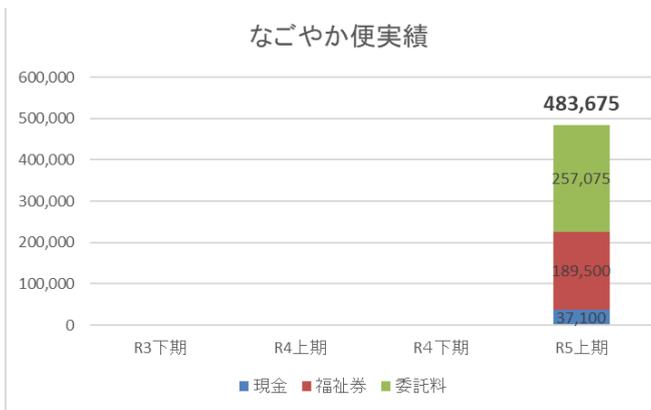
阿武町自家用有償旅客運送（令和6年3月時点）

期 間	令和5年4月1日から	令和3年10月1日から	令和5年4月1日から
名 称	なごやか便	福賀コミュニティ交通 ふくすけ便	宇田ふれあい便
区 域	阿武町内	阿武町内 (JA山県阿中支所(萩市紫福)のみ可)	阿武町内
路 線	自由経路	自由経路	自由経路
停留所	なし	なし	なし
運行方式	自家用有償旅客運送（交通空白地有償輸送） デマンド方式（ドアツードア型）※奈古地区から出発もしくは到着に限る	自家用有償旅客運送（交通空白地有償輸送） デマンド方式（ドアツードア型）※福賀地区から出発もしくは到着に限る	自家用有償旅客運送（交通空白地有償輸送） デマンド方式（ドアツードア型）※宇田郷地区から出発もしくは到着に限る
運行回数	毎日運行（予約制、前日までの予約）	毎日運行（予約制、当日予約可）	毎日運行（予約制、前日予約）
運行時刻	午前8時～午後8時（予約制）	午前6時～午後8時（予約）	午前7時～午後8時（予約制）
車 両	コンパクトカー5人乗り	コンパクトカー5人乗り	コンパクトカー5人乗り
料 金	<ul style="list-style-type: none"> ・奈古地区内1回300円 ・奈古地区外1回500円 ※ただし特別時間（午後6時～午後8時）料金は下記別料金とする。 ・奈古地区内1回400円 ・奈古地区外1回700円 ※待機時間は30分まで無料、以降30分毎に200円加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・福賀地区内1回300円 ・福賀地区外1回500円 ※ただし特別時間（午前6時～午前8時、午後6時～午後8時）料金は下記別料金とする。 ・福賀地区内1回400円 ・福賀地区外1回700円 ※待機時間は30分まで無料、以降30分毎に200円加算 	<ul style="list-style-type: none"> ・宇田郷地区内1回300円 ・宇田郷地区外1回500円 ※ただし特別時間（午前7時～午前8時、午後6時～午後8時）料金は下記別料金とする。 ・宇田郷地区内1回400円 ・宇田郷地区外1回700円 ※經由地一箇所につき100円加算
運行主体	阿武町（運行委託「なごやか便」）	阿武町（運行委託「福賀コミュニティ交通ふくすけ便」）	阿武町（運行委託「宇田ふれあい便」）
利用者	制限なし	制限なし	制限なし
予約方法	電話予約（スマホ受付）	電話予約（スマホ受付）	電話予約（スマホ受付）
配車方法	L I N E（ライン）	L I N E（ライン）	L I N E（ライン）
運転手当	1時間1,000円 特別時間:1時間1,300円	1時間1,000円 特別時間:1時間1,300円	1時間1,000円 特別時間:1時間1,300円
事務手当	予約:1月10,000円 予算管理:1月10,000円	予約:1月10,000円 予算管理:1月10,000円	予約:1月10,000円 予算管理:1月10,000円

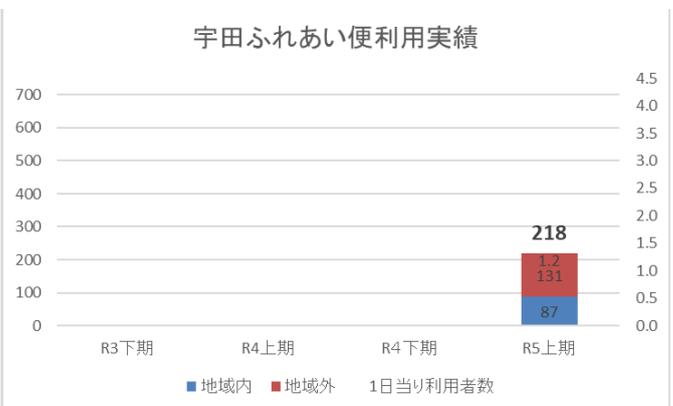
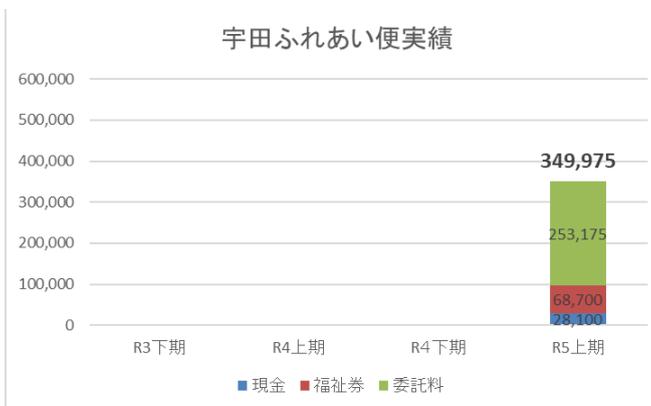
福賀地区



奈古地区



宇田郷地区



【まちづくり推進課調べ】

⑥ スクールバスの利用状況

- 奈古、宇田中学校の統廃合、阿武中学校の開校に伴い、平成16年4月から宇田郷地区の生徒の通学のためスクールバスを運行開始しました。また、福賀中学校の閉校と阿武中学校への統合に伴い、平成28年4月から福賀地区の生徒の通学のためスクールバスの運行を開始しました。
- 宇田郷地区のスクールバスは路線沿線の木与及び宇久集落の小中学生を、福賀地区のスクールバスは路線通学沿線の河内集落の小中学生を乗車させています。
- スクールバスを運行しない土日祝日及び休業期間中の学校行事やクラブ活動の利用は、通学バスを提示し、町営バスに無料で乗車しています。

令和5年度児童生徒自治会別人数

地区	自治会	小学1	小学2	小学3	小学4	小学5	小学6	小計	中学1	中学2	中学3	中計	合計
奈古	河内						1	1	1		1	3	4
奈古	木与				1			1	1	1	1	3	5
奈古	宇久							0				0	0
奈古	寺東	1			1			1	2	2	1	5	8
奈古	上下郷							1				0	2
奈古	下野柳		1		1			2			1	1	3
奈古	古野東			3		2		5			1	1	6
奈古	古野方	3	2	3	2	1	1	12	1	3	2	6	18
奈古	市土							1			1	1	2
奈古	筒尾							0				0	0
奈古	筒西ノ一							1			1	1	2
奈古	筒西ノ二				1			1	1	1		2	2
奈古	筒西ノ三							0				0	0
奈古	筒西ノ一							0				0	0
奈古	筒西ノ二		1		1			2			1	1	3
奈古	筒西ノ三							1		1		1	2
奈古	筒西ノ二		1					2	1	2		3	5
奈古	筒西ノ二	1				3	2	6			2	2	8
奈古	筒西ノ二				3		2	5		1		1	6
奈古	筒西ノ二	1	2	3	2	5		13	7	1	3	11	24
奈古	筒西ノ二	1	4	1	2	1	3	12	2	3	3	8	20
奈古	筒西ノ二	4	2	4	4	3	3	20	1	1	3	5	25
奈古地区合計		11	13	15	17	18	17	91	17	17	21	55	146
宇田郷	宇田浦			1				2	1		1	2	4
宇田郷	宇田中央			1	1			2			1	1	3
宇田郷	尾無畑				1			2		1		1	3
宇田郷	惣郷							0				0	0
宇田郷地区合計		0	0	2	2	1	1	6	1	1	2	4	10
阿武小合計		11	13	17	19	19	18	97	18	18	23	59	156
福賀	久瀬原							0				0	0
福賀	上下東郷							0				0	0
福賀	新田							0	1			1	1
福賀	伊野							0				0	0
福賀	伊野		1					1				0	1
福賀	中見村		1	1		1	2	5	1	2		3	8
福賀	宇田藤地							0				0	0
福賀	宇田社							0				0	0
福賀	宇生中					1		1	1			1	2
福賀	飯上							0				0	0
福賀	上下尾			1				1				0	1
福賀	上下尾							0				0	0
福賀	上下尾							0				0	0
福賀	上下尾							0				0	0
福賀地区合計		0	2	2	0	2	2	8	3	2	0	5	13
阿武町合計		11	15	19	19	21	20	105	21	20	23	64	169

【教育委員会調べ】

令和5年度 児童生徒数の推移

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
阿武小学校							
平成25年度	23	16	17	19	17	19	111
平成26年度	15	22	17	17	19	17	107
平成27年度	29	16	22	18	17	19	121
平成28年度	17	29	18	22	17	16	119
平成29年度	18	19	29	18	23	18	125
平成30年度	19	18	19	28	19	24	127
平成31年度	20	19	18	19	28	19	123
令和2年度	20	20	17	18	19	27	121
令和3年度	18	20	19	18	18	19	112
令和4年度	12	18	19	19	18	18	104
令和5年度	11	13	17	19	19	18	97
令和6年度	9	11	13	17	19	19	88
令和7年度	11	9	11	13	17	19	80
令和8年度	4	11	9	11	13	17	65
令和9年度	7	4	11	9	11	13	55

	1年	2年	3年	計
阿武中学校				
平成25年度	15	17	11	43
平成26年度	19	15	17	51
平成27年度	18	19	15	52
平成28年度	16	18	19	53
平成29年度	25	16	21	62
平成30年度	15	20	17	52
平成31年度	24	15	20	59
令和2年度	22	24	15	61
令和3年度	25	22	24	71
令和4年度	20	23	22	65
令和5年度	21	20	23	64
令和6年度	20	21	20	61
令和7年度	21	20	21	62
令和8年度	19	21	20	60
令和9年度	19	19	21	59

	1年	2年	3年	計
高校生				
平成25年度				0
平成26年度				0
平成27年度				0
平成28年度	15	17	11	43
平成29年度	19	15	17	51
平成30年度	21	19	15	55
平成31年度	17	21	19	57
令和2年度	20	17	21	58
令和3年度	15	20	17	52
令和4年度	24	15	20	59
令和5年度	22	24	15	61
令和6年度	23	22	24	69
令和7年度	20	23	22	65
令和8年度	21	20	23	64
令和9年度	20	21	20	61

+

	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
福賀小学校							
平成25年度	2	4	3	0	2	2	14
平成26年度	4	2	5	3	0	2	16
平成27年度	1	4	1	4	3	0	13
平成28年度	2	1	4	1	4	3	15
平成29年度	3	2	1	4	1	4	15
平成30年度	1	3	2	1	4	1	12
平成31年度	1	1	3	2	1	4	12
令和2年度	0	1	1	3	2	1	8
令和3年度	2	0	1	1	3	2	9
令和4年度	2	2	0	1	1	3	9
令和5年度	0	2	2	0	2	2	8
令和6年度	2		2	2		2	8
令和7年度	1	2		2	2		7
令和8年度		1	2		2	2	7
令和9年度	1		1	2		2	6



	1年	2年	3年	4年	5年	6年	計
阿武町小学校全体							
平成25年度	25	20	20	19	19	21	125
平成26年度	19	24	22	20	19	19	123
平成27年度	30	20	23	22	20	19	134
平成28年度	19	30	22	23	21	19	134
平成29年度	21	21	30	22	24	22	140
平成30年度	20	21	21	29	23	25	139
平成31年度	21	20	21	21	29	23	135
令和2年度	20	21	18	21	21	28	129
令和3年度	20	20	20	19	21	21	121
令和4年度	14	20	19	20	19	21	113
令和5年度	11	15	19	19	21	20	105
令和6年度	11	11	15	19	19	21	96
令和7年度	12	11	11	15	19	19	87
令和8年度	4	12	11	11	15	19	72
令和9年度	8	4	12	11	11	15	61

	小学校	中学校	計
阿武町小・中学校全体			
平成25年度	125	43	168
平成26年度	123	51	174
平成27年度	134	52	186
平成28年度	134	53	187
平成29年度	140	62	202
平成30年度	139	52	191
平成31年度	135	59	194
令和2年度	129	61	190
令和3年度	121	71	192
令和4年度	113	65	178
令和5年度	105	64	169
令和6年度	96	61	157
令和7年度	87	62	149
令和8年度	72	60	132
令和9年度	61	59	120

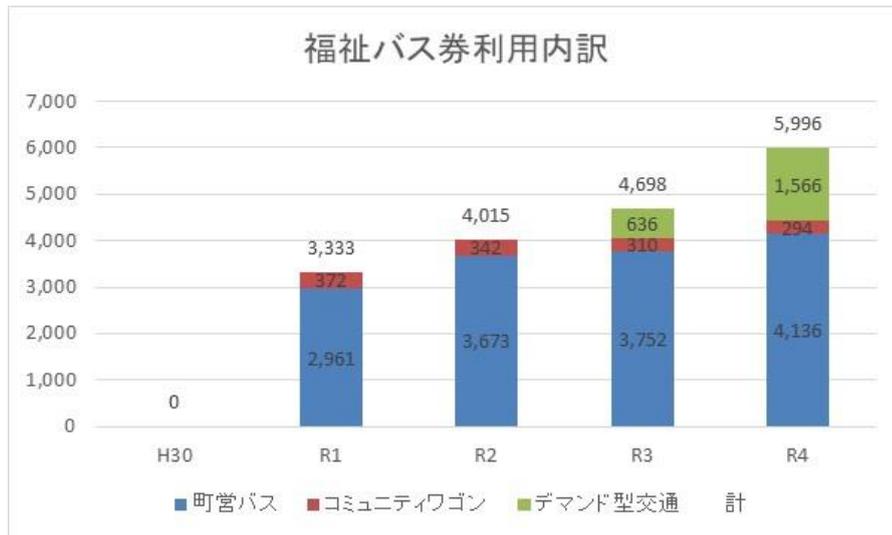
※H28以降の中学校生徒数は、福賀中と阿武中の統合による生徒数に変更。

【教育委員会調べ】

⑦ 福祉バス等助成事業

- 阿武町では、高齢者や障害者など対象となる方の日常生活の利便性の向上や社会活動の範囲拡大を実現することで、福祉の増進を図るため、町営バスやデマンド型交通の利用運賃を助成する「福祉バス等助成事業」を実施しています。
- 対象者には、町営バスやデマンド型交通を利用したときに使用できる100円分の助成券が年間上限144枚交付されます。なお、助成券の交付には申請が必要です。

助成額	対象者に100円の助成券を年間144枚(14,400円)交付
対象者の要件	①75歳以上の方 ②障害者手帳をお持ちの方(身体障害者1~3級)、知的障害者、精神障害者 ③要介護認定を受けた方(要介護1~5の方) ④難病患者など(特定医療受給者証・特定疾病療養受給者証をお持ちの方) ⑤人工透析を受けられている方 ⑥65歳以上の運転免許自主返納者 ⑦妊産婦(妊娠中から産後1年まで)
対象交通機関	町営バス、なごやか便、福賀コミュニティ交通ふくすけ便、宇田ふれあい便



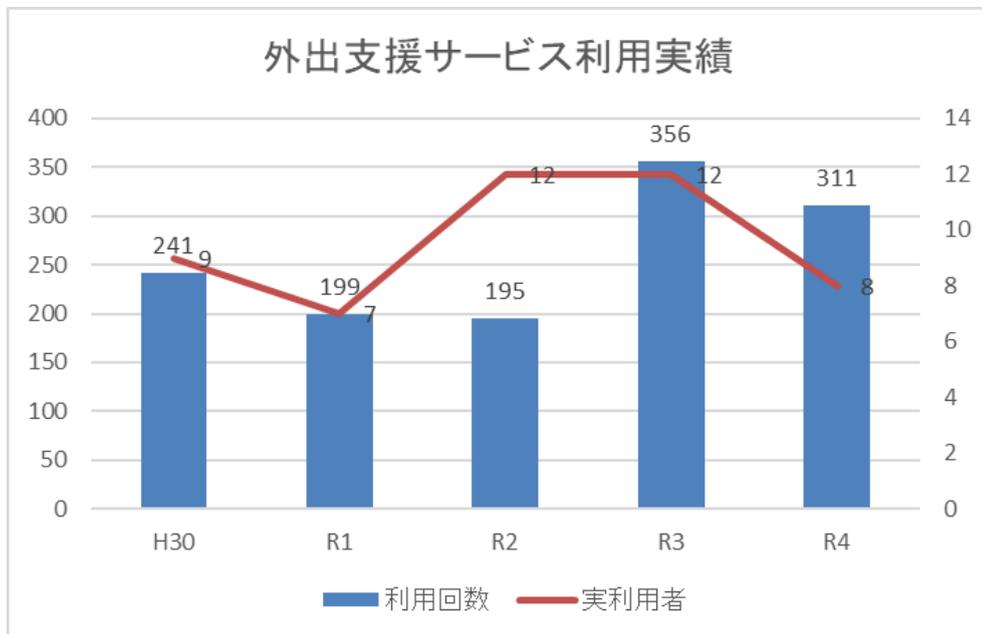
【健康福祉課調べ】

⑧ その他の移動支援事業

外出支援サービス事業（阿武町社会福祉協議会で実施）

- 阿武町では、高齢者や身体障害者等で公共交通機関を利用することが困難な人に利便を図り、併せて社会参画の促進と社会福祉の向上に寄与することを目的に、電話予約により市町村運営有償運送（福祉輸送）の外出支援サービスを実施しています。

対象者の要件	阿武町に居住するおおむね65歳以上の高齢者や身体障害者等で、自力で外出が困難でかつ家族の付き添いが得にくい者で他の手段により施設への通所が困難な者。内在住の交通手段のない高齢者
目的地	原則として町内及び近隣市町の福祉施設及び病院等
利用料	町内：利用負担額片道100円 町外：利用キロ数に37円（週1回以上利用する人工透析患者は18円）を乗じた金額
実施主体	阿武町社会福祉協議会



【社会福祉協議会調べ】



2-5. 公共交通施設の整備状況

① 駅施設の状況

- JR 奈古駅は、JR 山陰本線と路線バス「萩商工前～奈古駅前」及び町営バス「道の駅～福賀小前・宇生賀線」、「道の駅～惣郷線」との交通結節点となっています。
- 駅舎は、上りと下りのホームが跨線橋で結ばれていましたが、利用者の減少と老朽化に伴い撤去され、駅舎側に棒線化されたことから、結果的にバリアフリーになっています。
- このほか、木与駅と宇田郷駅がありますが、木与駅は離合のため上りと下りのホームが残っています。宇田郷駅は奈古駅同様に駅舎側に棒線化が図られています。いずれの駅も利用が大変少ない状況です。なお、奈古駅、木与駅、宇田郷駅の構内には駐輪場があります。



▲JR奈古駅



▲JR木与駅



▲JR宇田郷駅

② バス等施設の状況

- JR 奈古駅の横に萩行き、福賀行き、宇田郷行きの町営バス及びスクールバスの車庫及び乗務員の休憩所があります。
- 奈古駅前、道の駅阿武町、木与駅前、田部、うおなの郷、惣郷、栃原、宇田地、福賀小前のバス停にはバス待合所があります。（道の駅の待合所にはバスの到着時間を知らせるバスロケーションシステムがあります。）
- デマンド型交通の車庫は、阿武町役場本庁、役場福賀支所、役場宇田郷支所の敷地内にあります。



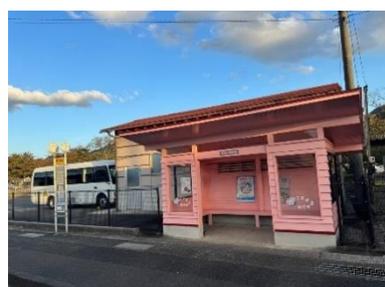
▲奈古駅前バス車庫①



▲奈古駅前バス車庫②



▲道の駅バスロケーションシステム



▲奈古駅前バス待合所



▲福賀小前バス待合所



▲うおなの郷バス待合所

2-6. 公共交通に関する町の財政負担

- 阿武町では、路線バス「萩商工高校前～奈古駅前線」の運行経費の一部と、町営バス2路線及び市町村運営有償運送のデマンド型交通の運行費を負担しており、近年の町の財政負担額は3千2百万円程度で推移しています。
- 町営バスの運行委託費は令和2年度と令和3年度、路線バスは令和3年度、新型コロナ対策の国の補助金が増額されたため大幅に減額していますが、利用者が減少する一方で、差し引くと増加傾向にあります。
- 市町村運営有償運送はこれまでの定時定路線のコミュニティワゴンからデマンド型交通に移行することで、利用者も増えた一方で、運行委託料が大きく減少しています。
- 福祉バス等の助成額は利用者の増加に伴い、令和元年度の3百万円から令和4年度には6百万円となり、今後も増加する見込みです。



【まちづくり推進課調べ】

2-7. 日常生活における移動の実態とニーズ（公共交通利用者及び運転手からの聞き取り調査による）

① 通勤・通学による人口移動

- 通勤・通学ともに、隣接する萩市との移動が多いものの、通勤は自家用車が主で公共交通機関を利用する人はほとんどなく、通学は町内の移動はスクールバス及び町営バスを、萩との移動は主に鉄道を利用しています。（荒天等で鉄道が運休した場合は路線バスを利用。）
- 福賀地区の高校生は通学に町営バスを利用し、奈古駅で鉄道に乗り換えていましたが、令和5年4月から帰りの便の接続ができなくなり、デマンド型交通福賀コミュニティ交通ふくすけ便を利用しています。

② 通院の移動状況

- 通院はほとんどがデマンド型交通と町営バスを利用して、宇田郷地区から奈古地区の医療機関及び路線バスに乗り換えて萩市の医療機関へ通院しています。
- 福賀地区ではデマンド型交通を利用して、主に地区内の診療所へ通院しています。

③ 買い物の移動状況

- デマンド型交通を利用して各地区の拠点、目的地となる施設が多く立地する奈古地区、路線バスに乗り換えて圏域の中心都市萩市に買い物に出かけています。帰りは荷物が増えるのでドアツードアがありがたいと言われています。
- 令和6年3月に宇田郷地区唯一の商店であったうおなの郷が閉店し、同地区内での買い物ができなくなり、地区外への買い物への移動ニーズがさらに高まっています。

④ 今後の移動手段確保に関する意向

- デマンド型交通は当日予約も受け付けてほしい、他地区の便も利用できると便利との声があります。
- 福祉バス券については、年齢制限の緩和や対象者などの拡充を図ってきましたが、交付申請や取得をもっと便利にしてほしいとの声があります。
- 高校生の通学は、テスト期間中やクラブ活動等の都合で時間が変動するので、帰りの便に困るとの声があります。
- 乗り換え時間については、もっと短くしてほしい一方で、道の駅でトイレや買い物の時間を確保してほしいとの声があります。

3 取り組むべき課題と対応方針

これまでの公共交通に対する調査・分析結果、及び阿武町地域公共交通会議での議論の内容を踏まえ、「取り組むべき課題と対応方針」を、以下のとおり整理しました。

① 交通弱者が安心して生活できる移動手段の確保

阿武町は公共交通が不便で、主たる移動手段は自家用車です。

いつでも誰でも安心して利用できることを基本に、自家用車等で移動することができない交通弱者に対し、路線バスや町営バス、デマンド型交通などの移動手段を確保していく必要があります。

また、各地区それぞれで運行しているデマンド型交通については全町で統一化を図ってほしいとのニーズがあります。

② 使いやすい公共交通のしくみづくり

通院や通学など、JRと路線バスや町営バス、デマンド型交通の乗り継ぎの最適化を図る必要があります。このほか、ICTの活用など公共交通を使いやすいしくみを整えていく必要があります。

③ 公共交通を持続可能なものとするための取組

公共交通を維持存続していくためには、皆で支えるという当事者意識を持ち、デマンド型交通のしくみづくりで培われた互助的な地域住民同士のつながりを活かして、利用者の掘り起こしや利用促進を図り、持続可能な公共交通を実現します。

4 阿武町のまちづくりの方向性

本計画の上位計画及び関連計画について、計画の基本方針や目標、公共交通に関する施策・事業の概要等を下記の通り整理します。

上位計画

【第 7 次阿武町総合計画（令和 3 年 3 月策定）】

計画期間	令和 2 年度～令和 11 年度
将来像	夢と笑顔あふれる「豊かで住みよい文化の町」
施策の大綱	<ol style="list-style-type: none"> 1. 誇りと活力のある仕事づくり 2. 個が尊重される生活づくり 3. 人が集まるまちづくり 4. 町の力となるひとづくり 5. 未来につなぐ環境づくり 6. 安全安心な暮らしづくり 7. 時代に応じた行財政運営
人が集まるまちづくり (方針)	<ol style="list-style-type: none"> 1. 観光の振興 2. 定住の促進 3. 交流の促進 4. 交通体系の整備
公共交通や移動に関連する 内容 (p.124～127)	<p>施策の大綱 3 人が集まるまちづくり</p> <p>方針18 交通体系の整備</p> <p>施策61 生活交通の維持・確保と利用</p> <ul style="list-style-type: none"> ・バス路線の維持・確保 ・交通空白地域での移動手手段の確保 ・公共交通機関の利用促進 <p>施策62 新たな地域交通の仕組みづくり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・町内地域交通体系の見直し ・持続可能な交通ネットワークの構築

5 阿武町における公共交通のめざす姿

町民が安心して町内で暮らし続けるため、また町民が自由に集い交流するため、公共交通が解決すべき課題は多くあります。

また、上位・関連計画にも「バス路線の維持・確保」、「交通空白地域での移動手段の確保」といった内容が記載されており、今後の阿武町のまちづくりにおいて、公共交通が担う役割は大きいと考えられます。

一方で、特にバス路線維持に係る財政負担額は近年増加傾向にあり、今後の公共交通の検討においては、地域内の資源の活用や費用対効果の考慮が不可欠です。

これらの実情を踏まえた上で、町のまちづくりの方向性（上位・関連計画）を考慮し、町の公共交通のめざす姿を次のとおり整理します。

また、本計画における公共交通の主な対象者は通学者や高齢者等の交通弱者を想定するものとします。

5-1. 基本理念

暮らしを支え、地域に根ざした公共交通で誰もが住みやすいまちをめざして

5-2. 基本方針（基本目標）

基本方針 1 暮らしを支える、交通弱者の移動手段を確保する

既存の公共交通の役割の明確化と、移動手段確保のため町全体の最適化を図り、時代や環境の変化に柔軟に対応できる公共交通の構築をめざします。

基本方針 2 便利で使いやすい公共交通のしくみをつくる

利便性の向上や、運用の改善により、公共交通を利用しやすいしくみをつくります。

基本方針 3 地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する

持続可能な公共交通とするため利用促進に向けた機運の醸成を図り、新規利用者の掘り起こしや利用促進に取り組みます。

5-3. 阿武町における公共交通の将来像

位置づけ	系統	役割	維持・確保の方向性
広域幹線	JR 山陰本線	通学等による萩方面への移動を担う。	JR山陰本線利用尾拡大促進協議会と一体となり利用促進に努める。
地域内幹線	路線バス（4条乗合） 「萩商工～奈古駅前線」	奈古駅前から萩方面への移動を担う路線定期運行。 （医療・買い物等）	防長交通及び萩市と協議の上、地域公共交通確保維持改善事業（幹線補助及び車両購入補助）を活用し、路線の維持に努める。
町内の移動手段 （支線）	町営バス2路線 （交通事業者への運行委託による4条乗合） 「道の駅～福賀小前・宇生賀線」 「道の駅～惣郷線」	萩への結節ポイントである奈古駅及び道の駅と福賀地区、宇田郷地区を結ぶ定時定路線の幹線路線を担う。	地域公共交通確保維持改善事業（フィーダー補助及び車両購入補助）を活用し、路線の維持に努める。 利用の少ない福賀線については、将来的に廃止も視野に入れた検討を行う。（町営バスの乗合化、スクールバスの混乗化を検討）
	デマンド型交通 （自家用有償運送）	目的地までドアツードアの区域運行を担う。 （阿武町内に限る）	利用しやすく相互乗り入れや受付配車業務の集中化を図る。 朝夕の高校生等通学の足として、デマンド型交通の増車の検討
	スクールバス	福賀地区、宇田郷地区の児童生徒の通学を担う。	スクールバスの機能は残しつつ、一般の混乗や町営バスへの児童生徒の乗合の検討。 土日祝日、休業期間中の運行の検討。

6 基本方針を実現するための取組

6-1. 取組一覧

基本方針	取組	実施主体		
		町	交通事業者	地域住民等
くらしを支える、交通弱者の移動手段を確保する	既存の交通手段の最適化	○	○	
	デマンド型交通の充実	○	○	○
便利で使いやすい公共交通のしくみをつくる	公共交通の乗り継ぎの改善	○	○	
	交通系ICカード導入やキャッシュレス化の推進	○	○	
地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する	公共交通の利用促進	○	○	○
	マイ公共交通運動の推進	○	○	○

6-2. 各取組の内容

基本方針 1. 暮らしを支える、交通弱者の移動手段を確保する



既存の交通手段の最適化

対応する SDGs▶▶

- 町営バスについては、年間利用者数5,000人未満及び平均乗車密度 1 人以下を廃止の基準とし、既存交通手段との最適化を図ります。
- 町営バス（道の駅～福賀小前・宇生賀線）は、朝夕を除き利用者が極端に少ないため、廃止も視野に検討します。スクールバスへの一般客の混乗や町営バスを利用した児童生徒の送迎と一般客との乗合も検討します。

実施主体	阿武町、交通事業者				
実施時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	検討期間	実施可能なところから随時実施			

デマンド型交通の充実

対応する SDGs▶▶



- 地区毎に運行中の、デマンド型交通「なごやか便」、「福賀コミュニティ交通ふくすけ便」、「ふれあい便」の電話予約や配車等のオペレーションを集中化し、各地区からの出発または到着に限り運行のしきみを利便性向上のため全町で一体化を図ります。
- 福賀地区の高校生の通学の足として、10人乗りワゴン車を増車して対応することを検討します。

実施主体	阿武町、交通事業者、地域住民等				
実施時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	検討期間	実施可能なところから随時実施			

基本方針2. 便利で使いやすい公共交通のしくみをつくる

公共交通の乗り継ぎの改善

対応する SDGs▶▶



- 町営バスと路線バスへの乗り継ぎについては、運行時間の抜本的な見直しを図ります。
- 道の駅等での乗り継ぎの利便性を高めます。

実施主体	阿武町、交通事業者				
実施時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	継続実施				

交通系ICカードの導入やキャッシュレス化の推進

対応する SDGs▶▶



- 令和6年3月末に、(株)防長交通の路線バス「萩商工高校前～奈古駅前」及び町営バス2路線に交通系ICカードのサービスが開始されました。また、バスの到着時刻を知らせるバスロケーションシステムが道の駅の待合所に設置され、スマホ用のアプリも運用されています。
- 現在、福祉バス券の交付は窓口申請ですが、プッシュ型の電子交付と利用のしくみを検討します。
- 公共交通機関にキャッシュレスで乗車できるしくみづくりを行います。

実施主体	阿武町、交通事業者				
実施時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	継続実施				

基本方針3. 地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する

公共交通の利用促進

対応する SDGs▶▶



- 広報あぶや萩テレビ等で公共交通利用促進のPRを行います。
- 県や JR 西日本と連携し、JR 山陰本線の利用促進に努めます。
- バス等の公共交通機関の利用促進に努めます。

実施主体	阿武町、交通事業者、地域住民等				
実施時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	継続実施				

マイ公共交通運動の推進

対応する SDGs▶▶



- 利用者が支える公共交通との認識のもと、住民自ら利用促進を行うとともに、デマンド型交通の運転手グループの確保としくみの維持を図ります。

実施主体	阿武町、交通事業者、地域住民等				
実施時期	R6年度	R7年度	R8年度	R9年度	R10年度
	継続実施				

7 計画の管理

7-1. 評価指標

計画の達成状況を評価するため、基本方針ごとに評価指標を設定します。

基本方針	暮らしを支える、交通弱者の移動手段を確保する
評価指標①	路線バス「萩商工高校前～奈古駅前線」の利用者数
把握・算出方法	バス事業者保有の乗降データ
現状値	59,151人（令和4年度）
目標値	60,000人（令和10年度）《約849人増》

基本方針	暮らしを支える、交通弱者の移動手段を確保する
評価指標②	町営バスの利用者数
把握・算出方法	バス事業者保有の乗降データ
現状値	① 「道の駅～福賀小前・宇生賀線」 3,314人（令和4年度） ② 「道の駅～惣郷線」 7,648人（令和4年度）
目標値	① 「道の駅～福賀小前・宇生賀線」 3,400人（令和10年度）《約86人増》 ② 「道の駅～惣郷線」 8,000人（令和10年度）《約352人増》

基本方針	暮らしを支える、交通弱者の移動手段を確保する
評価指標③	デマンド型交通の利用者数
把握・算出方法	デマンド型交通運行者の実績報告により計測
現状値	1,016人（令和4年度） ※全町3地区の運行開始は令和5年度からのため令和4年度は1地区のみの実績
目標値	4,000人（令和10年度）《約2,984人増》

基本方針	便利で使いやすい公共交通のしくみをつくる
評価指標④	キャッシュレス化の割合
把握・算出方法	乗降調査もしくは公共交通運転手への聞き取りによる推計
現状値	キャッシュレス利用率 0%（令和4年度）
目標値	キャッシュレス利用率 30%（令和10年度）（約30%増）

基本方針	地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する
評価指標⑤	人口当りの公共交通利用者数
把握・算出方法	路線バス、町営バス、デマンド型交通の合計利用者数を人口で割る
現状値	23人（令和4年度） $(59,151人 + 10,962人 + 1,016人) \div 3,046人$
目標値（想定値）	24人（令和10年度）《約1人増》 $(6万人 + 1万人 + 4千人) \div 3千人$

基本方針	地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する
評価指標⑥	公共交通に関する町の財政負担
把握・算出方法	町会計決算より整理
現状値	32,630千円（令和4年度）
目標値（想定値）	33,000千円（令和10年度）《約370千円増》

基本方針	地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する
評価指標⑦	路線バス「萩商工高校前～奈古駅前線」の収支差
把握・算出方法	事業実績報告等の資料から計測
現状値	▲18,598千円（令和4年度）
目標値（想定値）	▲18,000千円（令和10年度）《約598千円増》

基本方針	地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する
評価指標⑧	町営バスの収支差
把握・算出方法	事業実績報告等の資料から計測
現状値	① 「道の駅～福賀小前・宇生賀線」 ▲16,464千円（令和4年度） ② 「道の駅～惣郷線」 ▲14,734千円（令和4年度）
目標値（想定値）	① 「道の駅～福賀小前・宇生賀線」 ▲16,000千円（令和10年度）《約464千円増》 ② 「道の駅～惣郷線」 ▲14,000千円（令和10年度）《約734千円増》

7-2. 計画の推進とモニタリング

本計画の推進・進行管理は、PDCAサイクルの考え方のもと、阿武町地域公共交通会議が行います。

計画の推進にあたっては、毎年開催する阿武町地域公共交通会議で年度ごとの達成状況の評価・改善策の検討を行い、必要に応じて計画内容の見直しも検討します。

計画の最終年度（令和10年度）には最終評価を行い、次期計画について検討することとします。

【長期的なPDCA サイクル】

令和5年度	計 画 期 間					令和11年度
	令和6年度	令和7年度	令和8年度	令和9年度	令和10年度	
計画策定 Plan	計画の推進 Do				評価 Check	次期計画の 検討 Act

【年度ごとのPDCA サイクル】

	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
Plan 取組方針・内容を決定													
Do 取組													
Check 目標の達成状況等の評価													
Act 改善策の検討													

繰り返す

7-3. スケジュール

基本方針	事業	R6	R7	R8	R9	R10
暮らしを支える、交通弱者の移動手段を確保する	既存の交通手段の有効活用	Step 1	Step 2			
	デマンド型交通の充実	継続実施				
便利で使いやすい公共交通のしくみをつくる	公共交通の乗り継ぎの改善	実施可能なところから 随時実施				
	交通系ICカード導入やキャッシュレス化の推進	実施可能なところから 随時実施				
地域に根ざした、持続可能な公共交通を実現する	公共交通の利用促進	継続実施				
	マイ公共交通運動の推進	実施可能なところから 随時実施				
	交通事業者の収益向上策の検討	実施可能なところから 随時実施				

阿武町地域公共交通計画

発行年月：令和 6 年 3 月

発 行：阿武町役場 まちづくり推進課

〒759-3622

山口県阿武郡阿武町大字奈古 2636番地

TEL 08388-2-3111